



町長の考える 行財政改革とは

細川 弘美

質問

私が思った行財政改革と、町長が議会側に説明された事へのギャップがあります。

町長の考える行財政改革とは、事務事業の見直しを行い、来年度予算を組むことであつたのか、伺います。

町長答弁

行財政改革とは、行政と財政の運営方法等を時流に合わせて変革させるものと認識している。事務事業の見直しの他に、公共施設の見直し、職員の適正化委員会、審議会の定数、課の統合、町民に分かりやすい組織のあり方を検討する考えである。

質問

とりあえずの事業見直しで、来年度予算は組めるが、18年度以降をどうする計画か。町長が言われるロープウエーの18年度以降の返済金は事務事業見直しに入っていないが、18年度以降の計画を伺います。

町長答弁

税収もダウンするだろう。その数値を見た後、どういう方法があるか、考えなければいけない。

い。当座は19年度に職員給料3%削減。どうしようもなくなくなれば、手を付けなければいけない。気もしている。

ロープウエーの問題は一般会計に世話にならない様に、抜本的な見直しを3月に示す。

質問

ロープウエー、都市施設公社、観光協会、役場組織を含めた構造改革、役場職員と地域住民を含めた意識改革、行政と地域住民の役割の見直しがあつて、税に見合ったサービスが確立して初めて町民は納得するのではないか。

何かをする時は執行権者として権力を発動し、困った時は町民から付託された議員の皆さんと一緒に難局を乗り越えるのは、議員からの信頼は得られないし、町民からも得られない。金を削る事だけでなく、春に百万人、スキーをしなくても呼べる冬の百万人観光政策が必要なのではないか。
(この質問に対しての答弁は
ありません)

総合計画を町民に委託しては

質問

17年度から湯沢町総合計画の後期計画を作成する予定であるが、従来の役場職員で素案を作り、審議会に諮問して決定するやり方ではなく、町民と役場職員による委員会に委託して作成させる考えはないか伺います。

町長答弁

従来の行政だけでやるのではなく、新しい発想の協働的な委員構成でやって行きたい。

町民による町民の為に町制50周年事業について

質問

来年の町制50周年事業を町民に委託したらどうか。これからの湯



町民と協働策定した福島県会津坂下町の“町づくり計画”

沢町をつくって行くスタートの年にしなければならぬ。町民の為に町制50周年事業にすべきと考えるが。

町長答弁

町民の楽しみがない中、楽しみのメニューの一つとして、NHKのど自慢を考えた。観光立町宣言も入れ、町民参加で50周年事業をやる。

一

般

質

問